

### 33 当院の NST (栄養サポートチーム) 活動の現状と今後の課題

病院栄養サポートチーム 内山久子 飛松好子 富安幸志 宮坂良子  
河野成樹 前野しのぶ 山中彩子 浅利英子  
野地治子 山中京子 繁田文子

【目的】当院では 2007 年に NST (栄養サポートチーム) を立ち上げ、今年で 9 年を迎えた。当初から順風満帆とはいかなかった経緯もあるが、徐々に NST 介入件数も増え院内スタッフの間で NST 活動は浸透してきている。そこで、当院における NST 活動の現状と課題について報告する。

【方法】NST 回診は、主治医より依頼のあった患者及び入院時での栄養スクリーニングで介入必要と判断された患者を対象に週 1 回実施している。NST メンバーは、チームリーダー (院長)、NST 担当医師、主治医、病棟看護師、管理栄養士、薬剤師、臨床検査技師が中心となっている。回診では栄養管理状況、経時的栄養評価、ゴールの設定をポイントに情報を共有している。また院内で年 2 回の職員研修会も啓発活動として継続している。回診時のサポート内容は、経腸栄養への関わり、PEG 増設後の栄養管理、褥瘡患者への介入、摂食・嚥下障害患者への介入、体重管理、食欲不振や偏食者への対応、排便排泄管理、DM 管理など多岐に渡る。今回 2012 年 4 月から 2015 年 9 月までの間の介入患者を対象に、件数、介入期間、主な介入内容、栄養状態の推移などから今後の課題を検討した。

【結果】2012 年 4 月～2015 年 9 月までの介入件数は延べ 126 症例 (男性 89 例、女性 37 例)、平均年齢は  $56.2 \pm 15.8$  歳 (男性  $53.8 \pm 13.7$  歳、女性  $61.8 \pm 19.0$  歳) であった。介入期間は、平均 10.5 週 (73.4 日) で、そのうち 3 か月以上にわたり介入した症例は 35 例に上った。介入時の平均値は BMI  $21.3 \pm 5.5$ 、ALB (g/dl)  $3.5 \pm 0.4$ 、Hb (g/dl)  $12.9 \pm 9.2$ 、TLC ( $/\mu l$ )  $1528 \pm 612$  であった。介入した 94 例における ALB 改善症例は 56.4%、110 例における Hb 改善症例は 54.5%、105 例におけるリンパ球数改善例は 65.7% であった。介入依頼の内訳は、褥瘡・潰瘍治癒 46%、体重管理 (体重減少、過体重) 23.8%、食欲不振 18.3%、摂食・嚥下 16.7%、排便管理 16.7%、DM 管理 (血糖コントロール) 16.7%、貧血 16.7%、経管栄養 11.9% となっている。褥瘡患者への介入が有意に多く、少数ではあるが術後管理、血圧管理、偏食が項目に上がっている。今年度から改善度を確認し記録を始めた。また、現場感覚で使えるマニュアルを作成し効率化を検討しているところである。

【考察および結論】NST 活動の主な目的は、栄養不良症例の抽出及び適切な栄養療法の選択と早期発見である。NST を開始したことにより病院スタッフとのコミュニケーションが高まり、少しずつ栄養管理の重要性が理解され、栄養不良患者への早期介入も浸透しつつある。NST は単に栄養的なアプローチだけでなく、早期の退院や在宅支援にも有効なアプローチとなっている。多職種が包括的に患者にかかわることで、サービスの向上にもつながっていくと推測される。質の維持を図りつつ活動継続発展に努めたい。